

## 第8回 龍頭が滝案内

### 滝おどり 70年を超えておどり継がれる文化財

8月の滝まつりでは、滝観音様の法要の後で滝おどりが披露されます。法要(滝神社があったときは祭祀も)は遙か昔から行われていたのですが、滝おどりが加わったのはいつでしょうか。新聞記事を調べてみました。

昭和 14(1939)年 7 月 25 日付け松陽新報の記事(見出し「涼味島根 龍頭ヶ滝」)は、龍頭が滝の様子を次のように伝えます。

「同村では保勝保存会を結成して近時交通の発達に伴い探勝者逐年増加するので、大いに便を図り殊に夏季は売店も出張せしめるなど万全をして杖をひく人の便を計画している」。観光客が多くなり夏季は売店も計画されたようですが、滝おどりはなかったようです。龍頭が滝に関する記事は、戦前はこれが最後です。

戦後最初の記事は昭和 26(1951)年のこと。同年 4 月 1 日に松笠、掛合、多根の3村が合併し「掛合村」となり、さらに 8 月 1 日には町制が施行され、「掛合町」が誕生したことから、島根新聞には松笠村と龍頭が滝に関する記事が5回も掲載されます。

それらの記事は、松笠村では中国一の名瀑といわれる龍頭が滝を須佐神社に結んで、観光ルートにのせようとしていること。8 月 6 日から4日間にわたり吉田村出身の著名な彫刻家内藤伸を招き指導を受け、松笠、掛合地区青年団員約200名によって、荒れ放題になっていた滝の整備(滝壺の拡張、村道整備、あずま屋の整備など)が行われたこと。そして 8 月 18 日には町制施行の記念に、龍頭が滝で町主催の滝まつりと「滝おどり」が開催されること、を報じています。

以上、新聞記事を調べてみると、滝おどりが龍頭が滝に初めてお目見えしたのは、昭和 26(1951)年となります。その後70年以上も受け継がれているわけで、歴史のある貴重な文化財となっていますね。

